

令和8年度 学力向上のための重点プラン【中学校】新宿区立落合第二中学校

学校の共通目標

【HP公開用・様式1・令和8年5月8日】

授業作り	重点	各教科等で共通した「ペア・グループワーク」を取り入れた活動に積極的に取り組ませ、話し合う力の育成を行う。また、「デジタルドリル」を活用して個々の習熟度に合わせた問題に定期的に取り組ませ、基礎学力を更に定着させる。
環境作り		学習習慣を定着させるために連絡ノートを活用して、毎日の家庭学習状況を把握し、コメントによる指導助言を行う。また、家庭学習の手引きの作成を各教科で行い、自主学習に取り組みやすい環境を整備する。

■ 各教科の取組について

教科	学習状況の分析 (各種調査から)	学校が取り組む目標 (日常の授業の様子などから)	目標達成のための取組
国語	<ul style="list-style-type: none"> 「書くこと」の正答率は他の領域に比べ、高い。 漢字の書きと「読むこと」のスコアが低く、上位層と下位層の差も大きい。 	<ul style="list-style-type: none"> 基礎学力の定着の為、デジタルドリル等の活用、定期的に漢字テストを実施する。 「書くこと」の指導において、理由が書けているか、もとの文章を踏まえているか、構成がしっかりしているかなど振り返りの習慣付けを図る。 	<ol style="list-style-type: none"> ① 単元ごとの漢字テスト実施 ② デジタルドリルの活用 ③ ワークシートの工夫 ④ 文章を書く言語活動の実施
数学	<ul style="list-style-type: none"> 途中式や自分の考えを丁寧に書く習慣が身に付いている生徒が多い。 一方、基礎・基本の定着が不十分な生徒もおり、上位層と下位層の差が大きい。 	<ul style="list-style-type: none"> 習熟度別少数指導を生かした、個別最適化された指導で、基礎基本の定着を図る。 デジタルドリル等のICT機器の活用や効果的な言語活動を取り入れることで、数学的な思考力、判断力、表現力等を高める。 	<ol style="list-style-type: none"> ① 単元テストの実施による理解度・定着度の確認 ② デジタルドリルの活用 ③ ワークシートの工夫
理科	<ul style="list-style-type: none"> 「大地の成り立ちと変化」の分野は、他の分野と比べると正答率が高い。 応用問題の正答率が低い。 上位層と下位層の差が大きい。 	<ul style="list-style-type: none"> 身近な題材を扱うことや、観察・実験に意欲的に取り組ませる指導を継続する。 デジタルドリル等を活用し、家庭学習に取り組ませ、基礎学力の定着を図る。 自分の言葉で説明することが苦手な生徒の指導を工夫して行う。 	<ol style="list-style-type: none"> ① 小テスト・単語テストの実施 ② デジタルドリルの活用 ③ ワークシートの工夫 ④ 小グループでの実験・観察 ⑤ 小グループでの発表活動
社会	<ul style="list-style-type: none"> 学習内容の定着度が生徒間で大きく開いている。 応用問題の正答率が低い。 思考力が求められる問題への苦手意識が強い傾向にある。 	<ul style="list-style-type: none"> 単元テストや小テストの実施を通して、学習内容の定着を図る。 資料やグラフを読み取り、考察する機会を通して、思考力を向上させる。 タブレット端末を使用して、生徒が主体的に取り組める授業を実施する。 	<ol style="list-style-type: none"> ① 小テストの実施 ② デジタルドリルの活用 ③ ワークシートの工夫 ④ 小グループでの学習活動
英語	<ul style="list-style-type: none"> 各観点の平均が区の平均を大きく下回る学年がある。特に「聞く力」が低い。 応用問題の正答率が低い。 上位層と下位層の差が大きい。 	<ul style="list-style-type: none"> 話す場面を多く設定し、ALTとの会話テストも積極的に行うことで、リスニング力の向上を図る。 単語テストを繰り返し、基礎的な力を養いながら、文を作成させるなどの応用的な機会を多く作る。 	<ol style="list-style-type: none"> ① 小テスト・単語テストの実施 ② デジタルドリルの活用 ③ ワークシートの活動 ④ ディクテーション活動